

●行政視察（福島県西郷村） 奥山 幸子

6月26日（木）～6月28日（土）

移住・定住対策を学ぶ

福島県西郷（にしごう）村の取り組み

経済企業委員会委員6人で西郷村を視察しました。同行議員は、金川孝幸、岩崎由美、浅沼清孝、山本忠志と私の5人です。きっかけは、金川議員が西郷村の商工会会長とアマチュア無線を通じて40年来の友人であったこと。西郷村は全国的にも珍しい不交付自治体（自らの税収だけで財政運営ができる）であり、人口増加を実現し、村がこの視察を大歓迎していることから視察となりました。

新幹線の駅ができたこと・インターチェンジがあること

日本で唯一新幹線が止まる村として知られています。東北自動車道の白河インターチェンジ(IC)があります。交通の便が良いために人の移動と物流の利用が格段に上がりました。利便性の高さが移住を可能にし、企業誘致が進んだとのこと。

企業誘致

白河ICができたおかげで物流が改善し、各種の企業が集まりました。阿武隈川上流のきれいな水があり、地価が安いことも誘致につながっていました。“下町ロケット”を彷彿とさせる機械工場などの製造業が主要産業になっています。昨年の法人税収入が約50億円と聞き驚きました。

不交付団体に

西郷村は不交付団体になっていますが、人口約2万人の小さな自治体では珍しく、一般会計130億円のうち自主財源の割合は6割を超えています。半導体やメガソーラーの整備なども税収の安定化につながっているとか。八丈町の昨年の一般会計は約99億円ですが、自主財源はわずか9億円なのでうらやましい限りです。

移住者の取り組み

議長や担当課の説明のあと、数年前にオープンした人気のパン屋を視察。味は一流。材料や発酵時間にこだわって週に2回のみの営業でも流行る理由がわかりました。翌日は、移住者でもある商工会会長が運営する鉄鋼部品工場や農産物などの物販館、ビール製造会社などを視察しました。どの移住者も地元根付いていて、それぞれ特色ある企業努力をしていることを実感しました。

2次交通へ支援も

西郷村は面積190㎢で八丈の3倍と広いので、自家用車での移動が多いとはいえ、移動弱者にとってはやはり課題はありました。デマンドタクシーはすでに導入していて、村の補助は約3000万円。路線バスの運営にも4000万円を補助することで住民の足を支えていました。

移住対策にしても企業誘致にしても、学ぶことが多かった半面、財源なくして施策の実現はむずかしいと改めて感じました。それでも、その上で八丈の議会ができることを考えていこうと思いました。